

## 近畿大学バスバスターズの活動

小西 雅樹（近畿大学バスバスターズ）

「近畿大学バスバスターズ」はオオクチバスやブルーギルなどの侵略的外来魚を駆除することにより、水圏の在来生態系の保全を目指す学生団体であり、2008年に発足した。当団体が籍を置く近畿大学農学部奈良キャンパスは、奈良市西端の矢田丘陵に位置しており、主な活動場所は奈良キャンパス内の第1調整池および矢田丘陵にある遊びの森（子供の森）峠池である。

第1調整池にはブルーギルが、峠池にはオオクチバスが生息している。第1調整池にはニッポンバラタナゴの保存池が、峠池には在来メダカの生息池が、それぞれの近くに位置しており、外来魚の駆除が必須である。当団体では、誰でも簡単に駆除活動に取り組める釣獲やカゴ網等を使用して駆除活動を行っている。ため池の外来魚を完全に駆除するためには池干しが唯一の方法と考えがちであるが、それらは農事暦や水利権との調整などが必要で、簡単に行なえるものではない。その点、当団体が用いている釣りやカゴ網といった駆除方法は子供でもできるほど手軽である。外来魚の完全駆除は不可能と思われがちであるが、実際には、時間をかけて継続的に駆除を行なっていけば、誰でも特別な方法を用いずに外来魚を根絶することが可能である。現に、第1調整池では、過去にオオクチバスも生息していたが、年1回の学生実験による駆除活動の結果、オオクチバスの完全駆除に成功した。また、生息しているブルーギルについても減少傾向にあり、現在はメダカやギンブナ、タモロコなどの在来魚の姿が多く見られる。

また、当団体では既存の方法での駆除活動を行なうだけでなく、新しい駆除方法の模索も行なっており、近大式釣獲法を開発した。近大式釣獲法とは産卵期のオオクチバスを効率的に駆除する方法である。産卵期のオオクチバスを駆除することにより、個体数の減少とともに繁殖の抑制が期待できる。